

映像展示システム



ダム管理事務所内にオープンした展示ホール

■システムの概要

展示ホールには50型4面(100吋)のプロジェクトン・キューブシステムによる大画面モニターの他、40型プラズマディスプレイや液晶モニターなど最新の映像機器を備え、四季折々に移り変わる金山の自然やダムの歩みを来館者に紹介します。

タッチパネルによる検索システムでは金山湖の自然についての他、暮らしと共にあるダムについての詳しい情報を検索できます。

また、ホール内すべての映像展示システムは来館者を熱線センサーで感知することにより自動で運営することができます。

■おもな納入機器

100型プロジェクトン~50型4面プロジェクトン、
DVDプレーヤー、S-VHSビデオ、
アンプ、スピーカー

パネル埋込プラズマディスプレイ~40型プラズマディスプレイ、
DVDプレーヤー、アンプ、スピーカー

擬似水槽モニター~36型ワイドテレビ~2台、
DVDプレーヤー、気泡発生装置、
同期信号発生ユニット

ダムの歩み紹介モニター~20型液晶ディスプレイ
DVDプレーヤー

検索端末A~32型ワイドテレビ、DVDプレーヤー、
液晶タッチパネル、制御ソフト

検索端末B~32型ワイドテレビ、DVDプレーヤー、
液晶タッチパネル、制御ソフト

金山ダム管理所様

施主：北海道石狩川開発建設部
 施工：株式会社中山組
 所在地：北海道空知郡南富良野町金山
 納入年月：2000年7月

金山ダム湖は周囲約36kmの人工湖ながら、十勝岳連峰と日高山脈のふもと、鬱蒼と生い茂る原始林に囲まれた美しい湖です。このダムを管理する事務所の一画に雄大な自然を紹介する映像展示ホールがオープンしました。



金山湖の四季に彩られた展示パネルにはめ込まれたプラズマディスプレイ

タッチパネルで検索できる情報端末



水槽を模したモニターは前面に気泡を発生する装置を組み込み、金山湖に生息する生き物をリアルに映し出します。

金山ダムができるまで

昭和7年 手帳渡りが始まり、国庫貯蓄地帯の指定をうけました。
 昭和50年 金山ダムが国庫建設費で、本格的な調査と測量が始まりました。
 昭和54年 用地の買収と測量が進み、ダム建設工事が始まりました。
 昭和58年 金山湖のコンクリート打設が始まりました。
 昭和60年 コンクリート打設量が10万m³に達しました。
 昭和62年 コンクリート打設量が20万m³に達しました。
 昭和63年 ダム堰堤が完成しました。
 昭和64年 湖上初の航行、発電が開始されました。
 昭和65年 東空知川に湖内運搬機が導入されました。
 平成5年 「富良野と十勝、むつむつ」が開催されました。
 平成12年 金山ダム管理事務所がリニューアルし、展示ホールがオープンしました。

株式会社 光映堂シーエーブイ